

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査 速報

●実施状況

11 月 14 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は若潮で満潮 14 時 25 分、干潮 7 時 50 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日の調査時間帯の波浪は、0.1m 以下から 0.2m であった。今回の調査では全地点において赤潮は解消しており、また底層は貧酸素の状態から回復していた。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	14:25~15:10		13:00~14:01		11:25~12:30		10:15~10:53	
水深(m)	8.3		15.1		16.6		26.0	
天候	雨		曇		曇		曇	
気温	14.0		15.4		14.8		14.8	
風向/風速(m/s)	静穏		静穏		SE/0.8		SE/0.2	
波浪(m)	0.1 以下		0.1 以下		0.1 以下		0.2	
水色	暗灰黄緑色		暗灰黄緑色		黄緑色		暗灰黄緑色	
透明度(m)	3.7		3.2		2.5		4.0	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	17.1	18.0	17.0	19.5	16.3	20.3	16.7	19.5
塩分	27.6	30.2	28.3	32.4	22.5	33.7	27.2	33.7
pH	8.2	8.0	8.2	8.0	8.1	7.9	8.3	8.1
DO(mg/L)	9.6	5.4	9.0	4.4	7.9	3.3	8.7	5.3
臭気	弱下水臭	無し	無し	無し	弱下水臭	無し	無し	無し
備考			底泥：強硫化水素臭					

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	アカエイ (r)	漁獲無し	テンジクダイ (r)	カワハギ (r)
				マハゼ (r)
				ハタタテヌメリ (r)
魚類以外	ホンビノスガイ (c)	イッカクモガニ (r)	シャコ (+)	クシノハクモヒトデ (c)
	サルボウガイ (r)	アシナガゴカイ (r)	スナヒトデ (r)	スナヒトデ (+)
	サルエビ (r)	スナヒトデ (r)	アカガイ (r)	シャコ (r)
備考			1 回目ミズクラゲのみの為 2 回曳網を実施	

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G: 1000 個体以上、m: 100~1000 個体未満、c: 20~100 個体未満、+: 5~20 個体未満、r: 5 個体未満

St. 10

調査地点位置

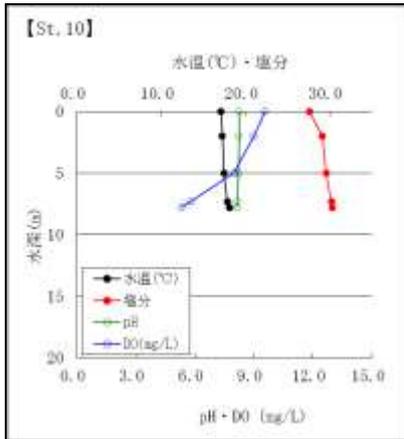


ディズニーランドの岸寄りに位置する。成魚調査の調査地点の中では、最も水深が浅い地点。アカエイのほか、サルエビ、ホンビノスガイ、サルボウガイ等が確認された。ホンビノスガイの殻が大量に混入した（ムラサキガイの殻も少量混じる）。赤潮はみられず、9月の調査同様、貧酸素は確認されなかった。

採取試料



水質の状況



沿岸の砂泥底に多く生息する。卵胎生※で春から夏にかけて砂底の浅場で子を産む。尾部には鋭い毒針を持っているため、注意が必要。6月の稚魚調査では、葛西海浜公園の浅瀬で捕獲された。

※卵胎生：胎生の一形式で、雌の体内で孵化した後、外に産み出される。



今では東京湾にすっかり定着しているが、北米原産の外来の二枚貝である。貧酸素にも比較的強い耐性を有する。千葉県では、漁獲対象種となっている。本調査地点では、毎回捕獲される。



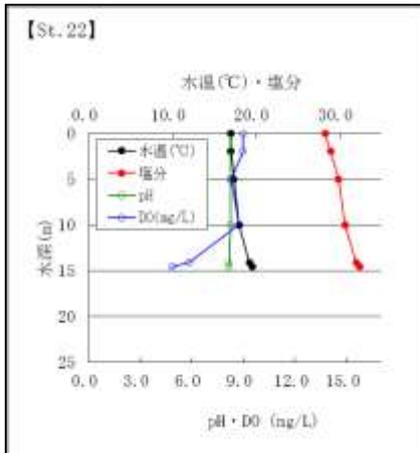
内湾の砂泥底に生息し、東京湾でも最も普通に見られる小型のエビである。寿命は1年程度である。

St. 22

調査地点位置



水質の状況



ディズニーランドの約3km沖合に位置する。底泥は硫化水素臭が強く、魚類の確認はなく、貝類もトリガイ等の死殻のみの確認であった。魚類以外では、イッカククモガニ、フタホシシガニ、シャコ、スナヒトデ、クシノハクモヒトデ、アシナガゴカイ等が確認された。赤潮の発生はなく、9月調査で見られた底層の貧酸素状態も改善していた。

採取試料



北米大陸西部沿岸原産の外来種。貨物船などのプラスチックにまぎれて日本に定着したと考えられている。内湾の砂泥底に生息するカニで、東京湾奥部に多く生息する。貧酸素に比較的強く、優占種となることが多い。



日本には、仙台湾以南に分布する。深さ20~400mの砂地の海底にすむ甲幅3.5cm程の小型のワタリガニ。甲のやや後ろにある二つの斑紋が目立つ。



砂泥底に生息する大型のヒトデ。海底の小動物や小型の貝類を捕食する。移動速度は速く、砂泥上をすべるように移動する。



日本では、千葉県から岡山県に分布する。内湾の潮間帯下部から潮下帯に多く生息する。かなり汚濁している海域のヘドロの中にも多数の個体が見られる。

St. 25

調査地点位置

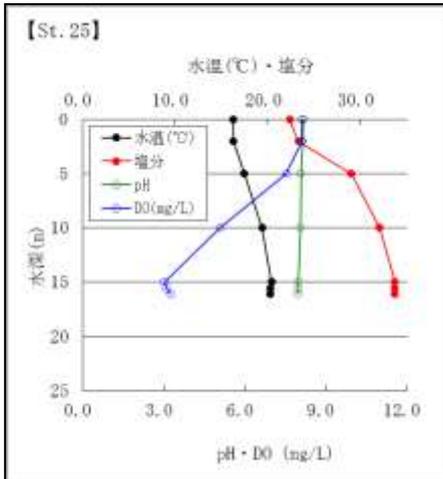


羽田空港の北東に位置する。テンジクダイ、ミミイカ、ウミフクロウ、シャコ、エビジャコ属、サルエビ、アカガイ、マガキ、ホンビノスガイ、スナヒトデ、アシナガゴカイが確認された。表層付近の赤潮の発生はなく、9月に発生していた底層の貧酸素状態は改善していた。

採取試料



水質の状況



テンジクダイ

東京湾の砂泥底に多く生息するが、内湾奥部には少ない。親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。5月調査時にも本調査地点にて捕獲された。



ウミフクロウ

日本では、本州全域と九州に分布する。比較的深い海底から潮間帯の岩礁に生息し、アマモ帯などの砂上にもしばしば見られる。



シャコ

内湾の砂泥底に穴を掘って生活している。東京湾では重要な漁業種となっているが、資源量はなかなか回復しない。



アカガイ

日本では、北海道南部から九州に分布する。内湾の潮間帯下の泥底に生息する。肉は血色素を含んでいるので赤い。食用として利用される。

St. 35

調査地点位置

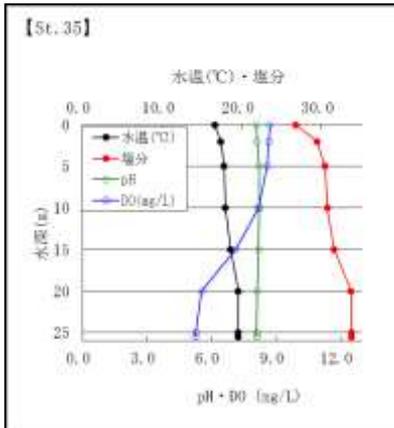


東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。カワハギ、マハゼ、ハタタテヌメリ、ミミイカ、マルバガニ、シャコ、ヨシエビ、エビジャコ属、スナヒトデ、クシノハクモヒトデ、スナヒトデ、マルバガニ、ヒメシラトリガイ、アシナゴカイ等が確認された。赤潮の発生はなく、9月調査時に発生していた底層の貧酸素状態は改善していた。

採取試料



水質の状況



カワハギ

日本各地に生息する。浅い海の砂混じりの岩場で良くみられる。砂の上で逆立ちした姿勢で口から水流を吹き出し砂の中の餌を探す。9月調査時にも捕獲された。



マハゼ

東京湾奥部の代表種。汽水域や内湾の砂泥底に生息する。主にゴカイ類を餌とする。成長とともに沿岸の深場へ移動する。1年で成熟して、産卵し死亡する。



ハタタテヌメリ

東京湾奥部の底生性魚類の代表種。貧酸素にも比較的強い。5月調査では多くの個体を確認できたが、9月調査時と同じく少なかった。



クシノハクモヒトデ

東京湾奥部の砂泥底に多く生息する。貧酸素に強い耐性を持ち、底層が貧酸素状態になりやすい夏季調査では本種しか捕獲されないことがある。